

〔シンポジウム〕

2. 看護基礎教育における家族看護学を考える

日本赤十字看護大学

原 礼 子

はじめに

家族は健康習慣を学習したり、健康問題の予防・発見・ケアの重要な基本的単位である。公衆衛生看護の領域では、歴史的にみても家族は病気の発生、およびその後の経過、回復過程に強く影響を与えているととらえており、家族へのケアが重視されてきた。また、わが国の保健婦教育カリキュラムにおいても家族相談援助論が主要な科目の一つに位置づけられてきた。家族看護は、家族の健康、セルフケア、生活の質を高めることを最終的な目標とした働きかけである家族をケアの対象としているものである。

日本赤十字看護大学（以下、本学とする）における学部のカリキュラムでは、開講しているそれぞれの領域科目で、家族に関する内容をそれぞれ教授されているが、看護教育の場における一つの課題といわれているように「家族看護学」が一科目としてカリキュラムに位置づけされていないのが現状である。

したがって、ここでは本学全体としての家族看護への取り組みを述べるのではなく、筆者の考える看護基礎教育における家族看護の教育について述べていきたい。

1. 学生のとらえた家族

看護教育の受け手である学生は、いったい家族をどのようにみているのだろうか。3年生の後半から看護学実習を行ってきている4年生に病院実習で出会った「困った、大変だ」と感じた家族について記

述してもらったのが表-1である。

どの実習でも家族を患者の背景とらえたり、疾患との関係でとらえたり、看護介入のケアプランを立てたりと、どの実習でも家族を考えない実習はないのである。記述から次のような学生の姿がみえる。

- ・家族の役割を果たさない、治療に協力的でない家族を自分が医療者の一員としてみている学生
- ・家族と医療者との関係がうまく行かない、そのあいだに立つて戸惑う学生
- ・大変だと思うがどうすればいいかふみこめないにいる学生の限界

家族もケアの対象と理解しても、ケアプランまではたてられても介入できない、あるいは家族の健康のアセスメントが十分でないためとまどいを感じる学生がいる。

家族の大変さを思うがどうしようもできない、あるいは距離をおいた見方で「家族は大変だ」ととらえている。患者と家族の関係、患者の病気や入院を家族がどのようにとらえているのか、退院後の家族関係はどのようになるかなどを把握し、家族に対して家族に会って確かめたりケアプランを共有することは困難のようである。

2. 領域の二重構造

家族全体のアセスメントなどを含めて看護の対象を家族とした家族看護が共通しておさえられる必要があると考えるが、看護の基礎教育においては次のような課題もでてくる。領域の二重構造ともいえるもので、家族看護の対象はライフサイクルからとらえても健康レベルからとらえても幅広くなる。また

表1. 学生が病院実習で家族について困った、大変だったと思った場面

<ul style="list-style-type: none"> ・心配していることに対して、ふみこめなかった ・手術のおわるのを待っている家族、つかれた様子だが声がかげられなかった ・家族が癌の告知に反対、告知した方がいいと思うが ・家族と出会い緊張した ・DM患者に果物の差し入れ ・食事制限のある患者に食べ物を差し入れる家族 ・小児DM、親が疾患の理解がなく自宅での管理がうまくいっていない ・家族の疾患の無理解、胃切除後の患者に刺身を食べさせる ・乳児の入院、母親が面会に来ない ・9か月の子の面会に親が2Wくらいしか面会にこない ・一方的にしゃべる母親、それに服従し自己否定気味の患者、その二人と居るとき居心地がわるい ・患者にどなる、なぐる ・医療者との接触を拒む ・医療者への不信を抱く家族、その気持ちと同じく医療者に不信を持った ・心配性の家族、過敏な反応をするので一言一言に気をつかう ・夫が胃切除のOP後で、妻の食事に関する知識、能力を査定する必要があったとき、「あなたなんかよりずっと知っているわ」といわれいやだなと思った ・家族の気持ちか医療スタッフとの間でずれがあるとき ・本人、家族の不安があり、訴えが多い ・児の入院で家族が離散状況、退院後の家族のダイナミズムが心配(家族の健康度のアセスメントの必要性) ・精神科で、患者に大きな影響を与えていると思う家族 ・肺癌末期、癌を本人には告知しておらず、妻が一人頑張っている、それを打ち明けられ家族の大変さを感じる ・病気の程度から家族の負担が大きいのと思われるとき ・夫の入院、子どもが小さい、妻が一人で奮闘しなければならず大変そう ・高齢者二人暮らし、夫の入院で痴呆気味のある妻が施設入所することになった ・家族とは会えなかった
--

それぞれの看護領域では対象の専門性をもっているわけであり、教育カリキュラムの中に全体のコンセンサスをえた上で位置づけられる必要がある。そういう意味では一つの看護モデルでの教育カリキュラム展開の可能性を探ることが求められるのかもしれない。

3. カリキュラム私案

既存の各領域と家族看護学の関係図を図1. に示した。看護基礎教育のベースに家族看護学をおいた。看護の対象を家族とし、看護の目標を家族が健康についての学習に積極的に参加する環境を整え、家族自らが健康の維持増進・回復できるように援助するものとする。

従来の保健婦教育が現在の地域看護学教育と必ずしも一致するわけではないが、保健婦教育は歴史的にみても、家族を全体としてとらえる活動を展開してきており、家族援助活動は高く評価されている。地域社会で生活する様々な家族を対象とする地域看護学は、4年間の看護教育のまとめとして位置づけ

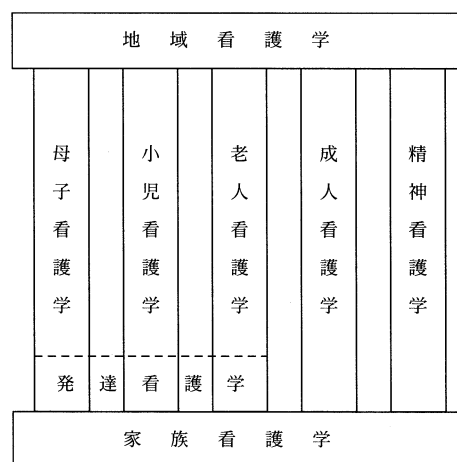


図1. 各領域との関係

られるものとする。

具体的に家族看護を教授する場合、学部における家族看護の教育目標をどのように設定すればよだろうか。

表-2は、日本看護系大学協議会の平成7年度「大学院看護学研究科教育の発展を促す方向について」委員会から報告された研究科クリニカル・ナース・スペシャリスト（以下CNS）教育課程案の「家族看護専攻教育課程」である。CNAに求められる家族介入能力は学部の基礎課程では当然求め得るもので

表2. 家族看護専攻教育課程

本専攻分野教育目標		
1) 家族看護の対象である家族を系統的に据え、専門的な知識に基づいて看護活動を展開することができる。すなわち、家族の健康をアセスメントする能力と技術、家族—看護者関係を形成する能力と技術、家族に対して看護過程を展開する能力と技術、家族を援助する専門的な技術、家族の代弁者としての能力と技術を習得する。		
2) 家族看護の領域に関して研究の企画推進者となることができる。		
3) 家族看護の領域に関わる他職種とのコーディネータの役割がとれる。		
4) 家族看護の領域でのコンサルテーションを行うことができる。		
5) 新しい援助技術を開発し、変革者となることができる。		
科 目	内 容	必修単位
専攻分野共通科目	家族看護 CNS の動向や役割 development に関する科目	10 単位
1) 保健医療福祉制度のなかでの家族看護の役割、位置づけに関する科目	家族を取りまく社会や地域、保健医療福祉制度を理解し、その調整や開発する能力を養うことに関連した科目	
2) 家族の健康及び生活に関する科目	家族のアセスメント、特に家族の健康及び家族の生活をアセスメントするために必要な理論や能力を養う科目	
3) 家族への看護実践展開に関する科目	家族を対象とした看護過程の展開や家族教育、家族へのサポート、ケースマネジメント、家族カウンセリング、家族療法などの介入方法を修得する科目	
4) 家族看護援助の方法に関する科目		
専攻分野専門科目	専攻分野専門科目は特に設定しないが、より専門化した領域での卓越した知識と技術を習得するために、ひとつの領域を深めていく。	小計 2
専門領域に関する科目は各大学で提示できる領域とする	「精神障害者を抱える家族への介入論」など	
実習	家族への看護介入を 10 例以上経験し家族の査定、家族への看護介入に加えて、複雑な家族奨励に関するコンサルテーション等、高度な実践技術を習得	小計 6
本専攻分野の必修単位		合計 18
CNS 共通科目 (8 単位以上)を含めた単位数		総計 26

はなく、その必要性を十分に理解することが重要だと考える。

1) 学部での教育目標

家族看護の対象である家族を系統的にとらえ、専門的な知識に基づいて看護活動を展開することの必要性を理解する

2) 主な教授項目

- ・ 家族の概念について
- ・ 家族の発達、絆の変遷
- ・ 家族の構造と機能 = エコ・マップ、ジノグラム
- =
- ・ 家族の健康のアセスメント
- ・ 家族の健康パターンの把握

また、これらに付随して例えば家族社会学やシステム理論についての講義など必要な周辺科目を準備することも必要だといえる。

3) 教授方法

- ・ 講義、セミナー、ビデオデモンストレーション、ロールプレイ、家族面接など

4) 単位

30 時間とし 1 ないし 2 単位とする

おわりに

M. Wright 博士は、「家族看護学の研究は、看護の実践を反映していかななくてはならない」と述べている。その看護実践に必要とされ知識と技能を公式化する、最も端的な努力がカリキュラムである。カリキュラムは実践において我々の理解で考慮すべき点を言語に表現する方法である。家族看護の実践と教育と研究成果の蓄積が急務であり、教育・研究と実践の連携がさらに求められるといえるだろう。